

エゾスジグロシロチョウ

Artogeia napi

シロチョウ科



エゾスジグロシロチョウ

名前の由来

蝦夷（北海道）に産する、翅に黒い筋のある白いチョウの意味。チョウという言葉はもともと「漢語」から取り入れたものである。漢字名：蝦夷筋黒白蝶

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

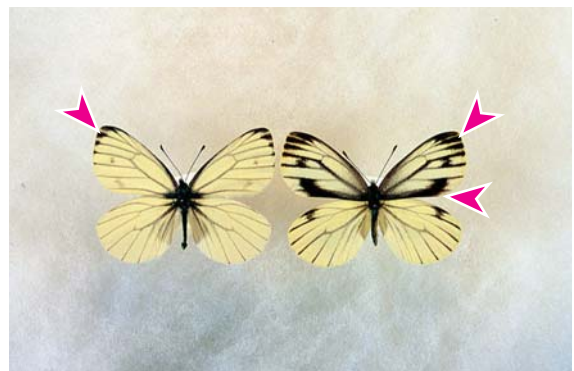
斑紋、翅脈のはっきりしたシロチョウ。大きさはモンシロチョウ程度。

オスメスおよび季節による斑紋の違いが顕著で、著しい地理的変異が見られる。

類似種と見分け方

スジグロシロチョウ。

一般にエゾスジグロシロチョウはスジグロシロチョウに比べて全体に小さく、はねの形にやや丸みのある傾向があるが、個体変異も大きく、同定は難しい。



エゾスジグロシロチョウ。表（左がオス、右がメス）



スジグロシロチョウ。（左が表、右がウラ）



エゾスジグロシロチョウ。ウラ（左がオス、右がメス）



モンシロチョウ。表（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期			■		■	■						
幼虫期			■		■	■						
蛹期	■		■		■		■	■	■	■	■	■
成虫期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

生育環境・分布

平地から山地、高山帯までの小草地、林道、溪流沿い、市街地。林縁部や陰湿地的な場所に多い。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸および北米大陸の温帯から寒帯。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。

北海道内では、全域に分布する。

十勝地方では、平地から山地まで広く分布し、普通に見られ、数も多い。

繁殖生態・寿命

年2～3回発生。越冬態は蛹。

産卵は主に食草の葉の表にする。孵化した幼虫は主として食草の葉裏に移動して葉を食べる。

幼虫は多くの場合4齢（亜終齢）になっても葉の表面に出ず、主に葉裏で生活し、葉を食べつくすと花穂にのぼ

り、その先端から花や果実を食べていくことが多い。この場合、幼虫は茎に下を向いて止まっているのが普通である。老熟すると食草の葉裏などに緑色型の蛹をつくる場合と他物に褐色型の蛹をつくる場合とがある。寿命：不明。

他生物との関わり

*コンロンソウや各種アブラナ科植物を食草とする。

*幼虫はアオムシコマユバチの寄生が知られるが北海道産亜種では幼虫の血球がアオムシコマユバチの卵をいくらか消化する能力をもつといわれている。

幼虫の食性（食草）

春型は主にコンロンソウ、夏型は各種アブラナ科植物。



コンロンソウ。
エゾスジグロシロチョウ幼虫の食草の一つ

興味深い話

■モンシロチョウは人里に、エゾスジグロシロチョウは山地に勢力をもつことが知られ、「すみ分け」の典型例として理科の参考書などに引用されている。ところが実際に調べてみると人里でも圧倒的にエゾスジグロシロチョウが多いことがわかる。これは古い観察が誤っていたのではなく、ダイコンやキャベツを主食とするモンシロチョウが農薬のために少なくなり、エゾスジグロシロチョウの方が人里に進出したためと思われる。

■エゾスジグロシロチョウは北海道の亜種と本州・四国・九州産亜種の2亜種に分類されている。ところが、D

NA分析による最近の研究によると、北海道産亜種は道東産のものと、道南産のものが別種であるという（分布の境界ははっきりせず、混生地もある）。道南産のエゾスジグロシロチョウが新種とすると、ますますスジグロシロチョウ類の分類が複雑になるが、21世紀になった現在においても身近な蝶が新種として発表される可能性はまだ残されている。

■十勝地方のアイヌ語では、白いチョウ類を「イソポマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

特になし。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑 I（蝶蛾編）」北隆館 1978

「学研生物図鑑 昆虫 I チョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983

「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（I）」福田晴夫、浜栄一 他 保育社 1982

「コタン昆虫記（4）」チョウ篇 井上寿 十勝地方史研究所 1988

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

白水隆（2002）2001年の昆虫界をふりかえって、蝶界。月刊むし No.375：p2-4。むし社

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類